

様式第3号

研修報告書（研修費）

令和4年11月14日

長久手市議会議長
川合保生 様

長久手市議会議員 加藤和男 ㊞

政務活動費を充てることのできる経費の範囲の運用指針により次のとおり届け出ます。

年 月 日	令和4年10月12日（水）から 令和4年10月14日（金）までの 3日間
研 修 先	第84回全国都市問題会議 (行程表は別表のとおり)
成 果	別 紙
経 費	金77,880円（政務活動費対象経費） 金77,880円（全体経費） (明細は別添のとおり)
提 出 資 料	○研修先資料 ●領収書の写し ○ガソリン代支出記録、ルート表、ガソリン代領収書添付書（車で行った場合に限る。）

※研修を実施した後は議長に1カ月以内に提出するものとする。ただし、1カ月以内が翌年度の4月20日を経過する場合は20日までとする。

行程表

第84回 全国都市問題会議

●令和4年10月12日（水）

10:00 発 11:10 発 16:27 着 15:00 着

藤が丘駅→名古屋駅→博多駅→長崎駅→長崎駅前→諏訪神社駅→ステーションホテル長崎諏訪

地下鉄 新幹線 長崎電気軌道

●令和4年10月13日（木）

8:00 発 8:45 着

ステーションホテル長崎諏訪→諏訪神社駅→長崎駅前→出島メッセ長崎（会場）

長崎電気軌道

17:00 発 17:45 着

出島メッセ長崎→長崎駅前→諏訪神社駅→ステーションホテル長崎諏訪

長崎電気軌道

●令和4年10月14日（金）

8:00 発 8:45 着 13:45 発

ステーションホテル長崎諏訪→諏訪神社駅→長崎駅前→出島メッセ長崎→長崎駅→博多駅→

長崎電気軌道 新幹線

18:47 着 19:50 着

名古屋駅→藤が丘駅

地下鉄

費用明細

藤が丘駅 ⇄ 名古屋駅	310 円 x 2 = 620 円	地下鉄
名古屋駅 ⇄ 長崎駅	21,150 円 x 2 = 42,300 円	JR
長崎駅前 ⇄ 諏訪神社駅	140 円 x 4 = 560 円	長崎電気軌道
参加費	10,000 円	
宿泊費	12,200 円 x 2 = 24,400 円	ステーションホテル長崎諏訪
計	77,880 円	

令和4年11月14日

長久手市議会議長 川合 保生 様

長久手市議会議員 加藤 和男

研 修 報 告

期日 令和4年10月12日（水）～14日（金）

研修先

・第84回全国都市問題会議 長崎市 出島メッセ長崎

研修内容



1. 第84回全国都市問題会議

“個性を活かして「選ばれる」まちづくり ～何度も訪れたい場所になるために～”

をテーマとして長崎市の出島メッセで開催された。

1日目は、株式会社ジャパネットホールディングス代表取締役社長兼CEO 高田旭人 氏から「民間主導の地域創生の重要性」と題した基調講演の後、開催市の長崎市長 田上富久 氏が「長崎市の魅力あるまちづくり」と題して主報告を行った。

その後、島根県立大学地域政策学部准教授 田中輝美 氏が「地域との新しい関わり方・関係人口」、また、山形県山形市長 佐藤孝弘 氏が「ビジョンを生かしたまちづくり～選ばれる山形市を目指して～」、さらに、一般社団法人地域力創造デザインセンター代表理事 高尾忠志 氏が「交流の産業化を支える景観まちづくり～長崎市景観専門官の取り組み～」と題してそれぞれ一般報告を行った。

2日目は、今回のテーマ“個性を活かして「選ばれる」まちづくり ～何度も訪れたい場所になるために～”について、東京都立大学法学部教授 大杉 覚 氏をコーディネーターとして、ゆとり研究所所長 野口智子 氏、山梨大学生命環境学部教授 田中 敦 氏、NPO法人長崎コンプラドール理事長 桐野耕一 氏、岐阜県飛騨市長 都竹淳也 氏、兵庫県伊丹市長 藤原保幸 氏によるパネルディスカッションを行った。

コメント

今回の都市問題会議のテーマは、“個性を活かして「選ばれる」まちづくり ～何度も訪れたい場所になるために～”である。

何度も同じ土地を訪れ、地域とのより深い関わりを持つ事は、来訪者にとっては、人間関

係を新たに構築し体験を深めるなど、自由で創造的なライフスタイルの選択肢の1つになる。都市にとっては、地域外の人に繰り返し訪れてもらい密度の高い関わりを深めてもらうことで、地域の新たな魅力を形あるものとし、地域の活性化を促進し、持続可能な地域社会を構築していくことに結びつくだらう。様々な文化の交流・集積によって魅力を増す潜在能力を、都市は持っている。「また訪れたいくなる、何度でも訪れたいくなる魅力ある地域づくり」は、すでに全国の自治体で様々な試みがなされている。

事例として、

長崎市では、地域力創造デザインセンター代表理事高尾忠志氏から、ただ道路を作るだけであれば1の価値が、少し工夫したり、何かをプラスすることで価値が10になる。そして1年では気づかないかもしれないけれども、10年経つと、こうした個々のプロジェクトの集積でまちが大きく変化し、まち全体の価値が百、千のプラスになる。こうしたまちづくりを実現するために、市役所内に景観の専門職、景観専門官を設置している。景観専門官の仕事は、①長崎市が行う公共事業のデザインの指導と管理、②長崎市職員の育成、であり各事業の現場におけるOJTによって①②を一体的に進める。景観専門官は、いずれの部局にも属さず、あらゆる部局の事業を監修する庁内監修者インハウス・スーパーバイザーである。

また、長崎市は2006年に日本初となるまち歩き博覧会「長崎さるく（ぶらぶら歩く）博'06」を開催した。「長崎さるく博」では、212日間の期間中、観光客や市民723万人がまち歩きに参加した。しかも、低予算で大きな経済効果を生み出す空前の大ヒットとなったため、「長崎さるく博」は、日本のまち歩き観光のお手本となった。

「まち歩き」とは、観光客をガイドするだけでなく、自分たちの「まち」の生い立ちを知り、「まち」の将来を考え、現在に実践する自分自身の生き方ともいえる。こうした思いを抱く人たちのために、長崎はもとより全国各地で「まち歩き」の実践講習や講演のお手伝いをしながら、力いっぱい長崎を宣伝している。

飛驒市は、人口減少が進んでいる飛驒市で頼りになるのは、地域外の方々だ。移住はしなくとも、心を寄せ、力を貸してくださる方々と交流を深めることが、必ず地域の力となる。そうした考えから2017年1月に「飛驒市ファンクラブ」を設立した。

全国の飛驒市ファンの方々をつながり、集い、語り、飛驒市をさらに楽しんでもらうコミュニティ組織である。会員の中から自主的に飛驒市に来て、ボランティアでファンクラブのイベントを手伝ってくださる方が何人も現れてきた。これらの方々は、もともと飛驒市の観光リピーターで、中には飛驒市が舞台となった映画「君の名は。」の聖地巡礼などをきっかけに20回近く訪問している猛者もいる。その現象を見ていて、これはいわゆる「関係人口」なのではないかと気づくに至った。「関係人口」とは「観光客以上、移住者未満」と定義され、地域と多様に関わる人々のことを指す。

そして、飛驒市を手伝い、関わりを持ちたいファンの方々と、市内で関わってもらえる課題=「関わりしろ」をマッチングさせるサービスとして2020年4月に関係案内所「ヒダスケ！」をスタートさせた。「飛驒を助ける」=ヒダスケである。「ヒダスケ！」では、手伝ってもらいたい地域課題をプログラム化してウェブ上に掲載し、参加者を募る。その内容は、農村の景観を保全するための石積みやトマト農家等の農作業、食品メーカーの新商品のデザインやアイディア出し、クラウドファンディングの支援、高齢者の自宅の障子貼りやお祭りへの参加など多岐に及んでいる。

伊丹市は、日本遺産では唯一日本酒をテーマとしたストーリー「伊丹諸白」と「灘の生一本」下り酒が生んだ銘醸地、伊丹と灘五郷が2020年6月に認定された。2016年、公共施設の総量規制をうたった条例としては全国初となる伊丹市公共施設マネジメント基本条例を制定し、それに基づく施設の再編整備を逐次進めている。これは安定的な持続可能な行財政運営を図るとともに、魅力あるまちづくりの基盤となる公共施設を将来にわたって適切に維持管理することを目的とし、公共施設の建て替え等にかかる負担を子供たちに先送りにしないことと合わせ施設サービスの向上を図ろうというものである。例えば、市立伊丹郷町館・市立美術館・市立工芸センター・柿衛文庫・市立博物館の5施設を統合再編し「市立伊丹ミュージアム」として約1年半の整備工事期間を経て2022年4月にリニューアル・オープンした。また、伊丹市の知名度アップのために、総務大臣賞やLibrary of the year 2016大賞を受賞した、図書館本館「ことば蔵」の名誉館長に作家で有名な田辺聖子氏が、着任したり、2022年11月末の市役所新庁舎開庁に合わせ、設計者で世界的建築家隈研吾氏の講演会などを予定するなどイメージアップを図っている。

長久手市では、11月1日に愛知万博記念公園モリコロパークにジブリパークがオープンした。また、NHK大河ドラマ「どうする家康」の放映が決まっている。多くの観光客が長久手市を訪れる。しかし、一時的ではなく継続的に訪れていただくために、長久手市の観光・魅力を発信して行かなくてはならない。今回のテーマ『個性を活かして「選ばれる」まちづくり～何度も訪れたい場所になるために～』は持続可能な観光・魅力を考える上で大いに参考になった。